

1. 支部長挨拶

(公益社団法人)日本気象学会北海道支部 支部長 高野 清治

会員の皆様には、日頃より気象学会北海道支部の事業運営にご協力をいただきお礼を申し上げます。

私は、このたびの北海道支部の理事選挙に当選し、6月2日に開催されました日本気象学会北海道支部の平成26年度第1回理事会において、第29期の支部長を仰せつかりました高野です。皆様からご支援・ご協力をいただきながら、北海道支部の発展のために微力ではありますが最善を尽くしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いたします。

さて、この数年を振り返りますと、我が国は、多くの自然災害に見舞われました。昨年だけでも台風第18号、26号で大きな被害がありました。18号では全国的に大きな被害があり、気象庁で運用開始早々の特別警報が近畿地方を中心に発表されました。北海道でも釧路地方を中心に被害が発生しました。また26号では特に伊豆大島で大きな土砂災害が発生し多数の犠牲者が出てしまいました。

とどまることなく進展する情報化社会の中で、自然における極端現象による災害を減らし、安全な社会生活を維持するため、気象・気候現象のさらなる究明と、予測精度の向上が求められています。

また、気象庁によりますと、大気中の二酸化炭素は着実に増え続け、日本を含む北西太平洋域で400PPMを一時的に超えるようになってきています。この二酸化炭素増加に伴う気候変動等の地球環境問題についてもさらに研究が求められていると思われます。北海道における温暖化の影響についても社会から知見を求められると思います。

さて、昨年は、日本気象学会は、公益社団法人として新たなスタートしております。「公益社団法人及び公益社団法人の認定等に関する法律」第2条の中で、「公益目的事業」として認められるのは「学術、技芸、慈善その他の公益に関する事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものをいう。」とされており、学術及び科学技術の振興を目的とする事業などとして気象学の進歩を通じた社会への貢献は、従来と変わる事無く、むしろ、分野の異なる研究者がそれぞれの力を学会という枠組みの中で出し合うことで大きな貢献につながるという意味で、より重要になってくると思っています。

北海道支部においても組織改革を行い、理事の数を大きく減らし、理事会の下に幹事会を設け、より機動的に活動しやすくなる体制としました。

また、この機関誌「細氷」も完全に電子化することとし、カラーページをふんだんに使うなどその利点を活かした記事となるようにしました。会員の皆様にはその利点を活かした形での投稿、利用をお願いしたいと思います。

その他、事務も外注できるものは外注化し、支部の事務に当たる会員の負担を減らしました。この支部の組織改革は終えたばかりですが、今後も皆様から様々なご提案をいただき、より実質的な活動が活発になるような支部にしていきたいと思っています。

学会員には大学等の研究者、気象台、気象サービス会社、教育関係者の皆様、行政関係の方、市民の方など多様な方がいらっしゃると思います。学会活動を通じこれらの方々の交流がさらに深められればと考えています。

会員の皆様には、益々のご配慮とご鞭撻を賜りますようお願いして、ご挨拶といたします。



(札幌管区気象台長)